

平成 29 年 5 月 9 日
総合政策局国際政策課
海外プロジェクト推進課
鉄道局国際課

石井国土交通大臣のマレーシア・シンガポール・カンボジア出張の結果概要

石井国土交通大臣は、5月2日から7日まで、マレーシア、シンガポール及びカンボジアに出張し、高速鉄道に関するシンポジウムに出席するとともに、各国政府要人と政策協議を行いました。

日本とマレーシアの官民が共催した、マレーシア高速鉄道シンポジウムに出席し、新幹線システムの導入がマレーシアの社会経済にもたらすメリット、人材育成・技術移転等の日本の協力の意義を訴えました。

マレーシアでは、ハミド陸上公共交通委員会議長やラーマン首相府大臣、ジョハリ第二財務大臣及びリオ運輸大臣と、シンガポールでは、コー運輸大臣及びウォン国家開発大臣と会談を行い、マレーシア・シンガポール高速鉄道について、我が国の新幹線の優位性、人材育成支援、現地企業との協働について説明する等精力的なトップセールスを行うとともに、鉄道、都市開発等のインフラ・交通分野における協力について意見交換を行いました。

また、マレーシアでは、ナズリ観光文化大臣とも会談を行い、観光分野における二国間での連携について意見交換を行いました。

カンボジアでは、ハオ・ナムホン副首相、オーン・ポンモニラット経済財政大臣をはじめとした五閣僚と会談等を行い、道路、港湾、自動車、都市開発、下水道、観光交流等のインフラ・交通・観光分野における協力について、意見交換を行いました。

会談等の模様は別紙の通りです。

【問い合わせ先】

○マレーシア、シンガポール(全般)関係

国土交通省 総合政策局 国際政策課 中川 / 海外プロジェクト推進課 福島、杉田

電話:03-5253-8111(内線:25922, 25807, 25805) 直通:03-5253-8318, 8135 / FAX: 03-5253-1561, 1562

○マレーシア(高速鉄道シンポジウム)関係

国土交通省 鉄道局 国際課 田中

電話:03-5253-8111(内線:40793)

直通:03-5253-8551 / FAX: 03-5253-1635

○カンボジア関係

国土交通省 総合政策局 国際政策課 前田 / 海外プロジェクト推進課 杉田

電話:03-5253-8111(内線:25924, 25805)

直通:03-5253-8551 / FAX: 03-5253-1635

1. マレーシア

(1) 第3回マレーシア高速鉄道シンポジウム

日時:平成 29 年 5 月 3 日(水) 9:30~15:00

場所:マレーシア(セントレジスホテル)

議事:開会挨拶(石井国土交通大臣)

基調講演(サイド・ハミドSPAD議長)

プレゼンテーション(奥田鉄道局長)

パネルディスカッション(日本、英国、米国、インド、台湾、マレーシアの有識者)

ビジネスミーティング(日本企業連合及びマレーシア企業)

主催:国土交通省、外務省、経済産業省、JETRO、JARTS、JORSA

共催:マレーシア陸上交通委員会(SPAD)

主な参加者:(日本側)石井国土交通大臣、JR 東日本・深澤副社長他

(マレーシア側)SPAD・サイド・ハミド議長、MyHSR・カマルCEO、SPAD・アズハルディンCEO他

結果:石井大臣は、開会挨拶において、外交関係樹立 60 周年を迎えた日・マレーシア間の良好な関係を歓迎し、両国間協力の最重要案件とも言うべきマレーシア・シンガポール間高速鉄道計画について、新幹線の経済効果を紹介しつつ、マレーシアに対する人材育成・技術移転の協力方針を述べた。

シンポジウムには、サイド・ハミドSPAD議長等の政府関係者、民間企業関係者、報道関係者等、600名以上が参加した。日本、英国、米国、インド、台湾、マレーシアの有識者が参加したパネルディスカッション等において、新幹線システムの導入がマレーシアの社会経済にもたらすメリット、人材育成・技術移転の日本の協力方針の意義等について意見交換を行った。また、ビジネスミーティングを開催し、日本企業とマレーシア企業による協働に向けた取組みを進めた。

ハミド議長からは、今回のシンポジウムに対する高い評価が示されるとともに、マレーシア・シンガポール高速鉄道に関し、新幹線のトータルライフサイクルコストの優位性、人材育成・技術移転、地域との協働等について、この機会に意見交換を行った。



(2) マレーシア政府要人との会談

マレーシア・シンガポール高速鉄道に関して、日本企業連合の同席のもと、ラーマン首相府大臣、ジョハリ第二財務大臣、リオ運輸大臣と会談を行い、新幹線の優位性、人材育成・技術移転、地域との協働等について意見交換を行った。先方の主な反応は以下のとおり。

(2-1) 鉄道分野

① アブドゥル・ラーマン・ダーラン首相府大臣

マレーシア企業と日本企業の協働の方針が評価されるとともに、新幹線のトータルライフサイクルコストの優位性に高い関心が示された。



② ジョハリ・アブドゥル・ガニ第二財務大臣

マレーシア・シンガポール高速鉄道について透明性の高い入札を行うことが強調された。また、我が国の人材育成、技術移転の方針を歓迎し、マレーシア企業と日本企業の協働を支持する考えが示された。



③ リオ・ティオン・ライ運輸大臣

鉄道分野の人材育成支援の提案に謝意が示されるとともに、マレーシア企業と日本企業の協働に関し、両国で具体的な進め方について協議を開始することで合意した。また、新幹線のトータルライフサイクルコストの優位性に関心が示された。



(2-2) 観光分野

ダト・スリ・モハメッド・ナズリ・アブドゥル・アジズ観光・文化大臣

日本とマレーシアの間の双方向の観光客数が近年順調に増加していることを確認し、日本政府観光局（JNTO）のクアラルンプール支局が開設されたこと等を踏まえ、引き続き、両国が観光分野において協力関係を強化していくことで認識を共有した。また、日本が2025年国際博覧会の大阪開催に向けて正式立候補したことについて、マレーシア政府の支持を要請した。



2. シンガポール

(1) コー・ブンワン インフラ統括大臣兼運輸大臣

マレーシア・シンガポール高速鉄道に関し、新幹線のトータルライフサイクルコストの優位性、人材育成・技術移転、地域との協働等について意見交換を行った。

(2) ローレンス・ウォン国家開発大臣

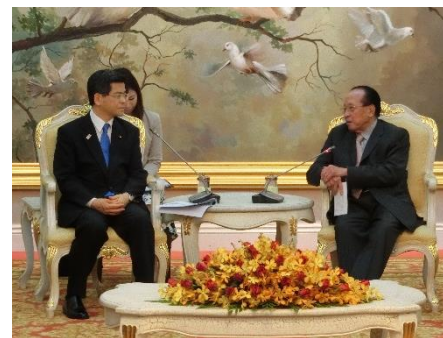
建設業の生産性向上及び入札制度に関する知見や課題等を共有するとともに、都市開発やインフラ分野において、引き続き協力していくことで認識を共有した。



3. カンボジア

(1) ハオ・ナムホン副首相

カンボジアにおける道路・港湾分野等のインフラ整備について両国の良好な協力関係を確認し、インフラ・交通分野において、引き続き協力していくことで認識を共有した。



(2) オーン・ポンモニラット経済財政大臣

プノンペン都内において計画中的新交通システム(AGT)、シハヌークビル港の新コンテナターミナルの整備に関する両国の協力のほか、道路・下水道分野のインフラ整備等について、意見交換を行った。

両国が、インフラ・交通分野において、引き続き協力していくことで認識を共有した。



(3) スン・チャントール公共事業運輸大臣

プノンペン都内の新交通システム(AGT)、シハヌークビル港の新コンテナターミナル、南部経済回廊幹線道路の整備に関する両国の協力のほか、自動車登録・検査、下水道分野のインフラ整備等について、意見交換を行った。

両国が、インフラ・交通分野において、引き続き協力していくことで認識を共有した。



(4) チア・ソパラ国土整備・都市化・建設大臣

本年1月に石井大臣とチア・ソパラ大臣との間で締結した住宅・都市計画分野等の協力覚書に基づき、住宅政策の構築や建設法案の起草、土地・建設関連制度の人材育成、地図作成・測量分野等に関して両国の協力強化を行うほか、課題等について意見交換を行った。

両国が、インフラ分野において、引き続き協力していくことで認識を共有した。



(5) タオン・コン観光大臣

(チア・ソパラ国土整備・都市化・建設大臣主催昼食会に同席)

両国間の観光交流分野に関して意見交換を行った。

